

弘前市立桔梗野小学校等複合施設整備工事基本・実施設計業務
公募型プロポーザル審査結果報告書

令和6年11月

弘前市立桔梗野小学校等複合施設整備工事基本・実施設計業務
公募型プロポーザル審査委員会

1 審査結果

最優秀者：佐藤総合計画・蟻塚設計共同体

(株式会社佐藤総合計画東北オフィス・株式会社蟻塚学建築設計事務所)

優秀者：山下設計・工藤設計共同企業体

(株式会社山下設計東北支社・株式会社工藤金正建築設計)

2 審査委員会の組織

役職	氏名	所属
委員長	馬渡 龍	八戸工業高等専門学校産業システム工学科環境都市・建築デザインコース 准教授
委員	駒井 裕民	株式会社建築住宅センター 代表取締役社長
委員	片岡 俊一	弘前大学大学院理工学研究科 教授
委員	加賀 恵子	弘前大学教育学部 准教授
委員	鈴木 直大	桔梗野小学校 校長
委員	花田 輝明	桔梗野小学校学校運営協議会 委員
委員	藤田 稔	桔梗野学区体育協会 会長
委員	木村 和彦	弘前市建設部長
委員	熊澤 靖夫	弘前市建設部建築住宅課長
委員長代理	成田 正彦	弘前市教育委員会教育部長
委員	福田 真実	弘前市教育委員会学校教育推進監

3 選定概要

(1)選定方法

弘前市立桔梗野小学校等複合施設整備工事基本・実施設計業務においては、弘前市立桔梗野小学校等複合施設基本構想に基づき、当市が求める条件に対する創意工夫や豊かな発想、諸課題の解決につながる技術提案ができる、より高度で専門的かつ技術的に最適な設計者を選定するため、公募型プロポーザル方式を採用した。

(2)参加意思表明者

7者

(3)参加資格の審査

設計共同体から提出された参加意思表明書類について、弘前市立桔梗野小学校等複合施設整備工事基本・実施設計業務公募型プロポーザル実施要領に基づき、事務局である弘前市教育委員会学校整備課において審査の結果、4者について参加資格を認め、企画提案書の提出を要請した。

(4)企画提案書を提出した設計共同体

4者

(5)第一次審査(書類による審査)

設計共同体から提出された企画提案書について、当審査委員会において書面審査を行い、企画提案書を提出した全設計共同体(4者)に対して、第二次審査への参加を要請した。

(6)第二次審査(プレゼンテーション及びヒアリング)

提出された企画提案書をもとに、企画提案(設計の全体像・設計業務の実施方針・安全かつ効果的な工事計画、児童の教育の場にふさわしい学校づくりと地域コミュニティの拠点となる施設づくり、学校・施設づくりにもとめられる機能や性能)についての評価を行った。

評価にあたっては、企画提案書を提出した4者について、個別にプレゼンテーション及びヒアリングを実施した。

(7)企画提案書評価点

順位	設計共同体名	得点 (満点 107 点)
1	佐藤総合計画・蟻塚設計共同体	77.248
2	山下設計・工藤設計共同企業体	70.317
3	設計共同体A	54.226
4	設計共同体B	54.112

4 選定の経過

令和6年8月27日(火)	公告
令和6年9月10日(火)午後5時まで	参加意思表明書質問受付締切
令和6年9月17日(火)	参加意思表明に関する質問回答
令和6年9月27日(金)午後5時まで	参加意思表明書受付締切
令和6年10月1日(火)	参加資格審査結果通知
令和6年10月3日(木)	現地見学会
令和6年10月11日(金)午後5時まで	企画提案書質問受付締切
令和6年10月18日(金)	企画提案に関する質問回答
令和6年10月31日(木)午後5時まで	企画提案書受付締切
令和6年11月9日(土)	第一次審査

令和 6 年 11 月 11 日(月)

第一次審査結果通知

令和 6 年 11 月 23 日(土)

第二次審査

令和 6 年 11 月 26 日(火)

第二次審査結果通知・公表

5 審査委員長講評

弘前市立桔梗野小学校は、昭和 24 年（1949 年）の開校から 75 年を迎える伝統校である。現在の校舎は最も古いもので昭和 46 年（1971 年）に建設され、既に 53 年目が経過していることから躯体や各所において老朽化が著しい。当審査委員会の目的は、老朽化した桔梗野小学校の改築に際し、新たに放課後児童クラブ・公共施設を一体化した複合施設の整備事業の基本・実施設計業務を担う設計者を公募型プロポーザル方式により選定することである。

弘前市では近年、教育施設に公共施設等を複合した整備事業の設計者選定を公募型プロポーザル方式で実施している。過去 2 回の石川小・中学校、第二中学校において実施されたプロポーザルでは、参加資格業績に対する評価と企画提案書に対する評価を合算した結果をもとに、最優秀者を決定する一体的な選定方法で行ってきた。しかし今回は、参加資格業績において一定の基準を満たした設計共同体に対し企画提案書の提出を求め、企画提案とプレゼンテーション及びヒアリングの内容をもとに審査委員会が評価を行い、最優秀者を決定するという、共同体の業績評価と企画提案評価を分離する選定方法を採用した。

その結果、当審査委員会は企画提案とプレゼンテーション及びヒアリングの内容をもとに、最優秀者を《佐藤総合計画・蟻塚設計共同体》、優秀者を《山下設計・工藤設計共同企業体》に選定した。

最優秀者である《佐藤総合計画・蟻塚設計共同体》の企画提案は、敷地北西側に建築を逆 L 字に配置した 3 階建（一部 2 階もしくは 1 階）であり、その端部の桔梗野広場と称する屋根付きの半屋外空間を介して学校・放課後児童クラブ・公共施設の玄関を設け、最も利便性が高く明快な配置計画であったこと。こうした配置計画が、西側からの卓越風の影響、通学路となる歩道の安全性の確保など、この敷地が抱える様々な課題に同時に応えることにつながったこと。校舎諸室の建築計画はもちろん、学校と公共施設、放課後児童クラブとの利用区画においても入念なシミュレーションを行い合理的な平面計画であったこと。弘前市が推進する「ゼロカーボンシティひろさき」と、これに関連する低炭素・省エネルギー・LCC 削減といった課題に対して、極めて現実的な提案を行ったこと。市が事前に公表した住民アンケートなどを読み込み、企画提案に丁寧に反映していたことなどが評価された。

本事業において今後設計に予定しているスケジュールは、基本設計が約 7.5 か月、実施設計が約 10 か月である。この間、学校・放課後児童クラブ・公共施設運営者との調整、教職員・児童・地域住民とのワークショップ実施など、関連業務が山積することをふまえるときわめて過密である。このようなスケジュールにおいて最優秀者は、より質の高い施設づくりを達成するという共通目標に対して、審査委員会が自信をもって推す設計共同体を選定した。